

■森類 隨筆家。森鷗外の三男。兄や姉の傘下で、定まらない生活を送り、結局、父のことを書いて暮らす後半生。

もりるい

大逆事件判決1911＝ 東京市本郷駒込千駄木で、**森林太郎(鷗外)**の三男に生まれる。母は志け。

大正政変・・1913＝ 2歳： **病弱のため、姉の茉莉・杏奴とともに、志けの実家荒木に預けられる。**

第一次大戦始1914＝ 3歳： 父にしきりに散歩に連れられるようになる。

21ヶ条要求・1915＝ 4歳： この年、長姉茉莉が小学校を卒業し、女学校に入る。

1916＝ 5歳： 祖母が死去。この年、次姉杏奴が小学校に入る。長兄於菟が結婚。

ロシア革命・1917＝ 6歳： 誠之尋常小学校に入学。

本格政党内閣1918＝ 7歳： 奈良に出張した父から、子供たちに、カタカナの手紙が連日のようにくる。この年、長兄於菟が再婚。

べルリン条約・1919＝ 8歳： この年、長姉茉莉が結婚。

大暴落・・・1920＝ **9歳**： **この頃から、父鷗外の衰えが目立ってくる。**

水平社結成・1922＝11歳： この年、次姉杏奴が仏英和女学校に入る。**最後の散策後、父鷗外が死去。**

関東大震災・1923＝12歳： 誠之尋常小学校を卒業し、高等師範学校付属小学校高等科に入学。関東大震災に出遇う。

護憲三派圧勝1924＝13歳： 国士館中学に入学、渋谷の母方伯父の家の前に引越す。家庭教師を受ける。この頃から母に浮腫の徴候。

治安維持法・1925＝14歳： **著しく修学意欲が減退し、母を悩ませる。**

日本時代始・1926＝15歳： **国士館中学を中退し、絵画を習いはじめ、**

金融恐慌・・1927＝16歳： **画家長原孝太郎に師事、川端画学校にも通う。長原の息子玄と親友になる。この年、茉莉が離婚し戻る。**

共産党事件・1928＝17歳： この年、森家の希望の星杏奴が舞踊を習い始める。この頃、母が類名義で西生田の土地を購入。

世界恐慌・・1929＝**18歳**： **絵のモデル春子に片思い。茉莉は仏語で翻訳の真似ごとし、山下新太郎画伯に絵を習うが長続きしない。**

海軍軍縮条約1930＝19歳： **杏奴と買い物や映画など頻繁に行くようになる。この年、茉莉は東北帝大医学部教授と再婚するも、**

満州事変・・1931＝20歳： **離婚される。母は浮腫もひどくなり、子供たちのことで、苦悩は極限に達する。杏奴とともに画家藤島武二に師事し、杏奴とともに、パリに遊学。**

帝人疑獄事件1934＝23歳： **ともに帰国。杏奴は、藤島武二の仲人で、画家小堀四郎と結婚。**

二二六事件・1936＝25歳： この年、小堀杏奴「晩年の父」(岩波書店)刊行。**母が尿毒症のため死去。以後、茉莉とともに自由な生活。**

日中戦争始・1937＝26歳： **母の主治医正木氏の紹介で谿伊之助画伯を知り指導を受ける。於菟の台北帝大赴任中に貸していた製菓業者の失火で観潮楼焼失し、**

健保+総動員 1938＝**27歳**： **森家では、やむを得ず、千葉県日在の別荘「鷗荘」を売却する。**

日米開戦・・1941＝30歳： **木下李太郎の仲人で、安宅安五郎画伯の長女美穂と結婚。茉莉は浅草下谷の勝栄荘に移る。**

・・・・1942＝31歳： 長女五百が誕生。

創価学会検査1943＝32歳： 千駄木の屋敷のうち「平屋の離れ」を譲り受ける。

年金+総武装 1944＝33歳： 次女佐代が誕生。**縁戚を頼って、妻らが福島県喜多方町に疎開後、腎臓を傷め、茉莉を連れて喜多方町に行く。疎開先で孝徳寺住職富樫正禪を知り、終生の友となる。**

敗戦・・・・1945＝34歳： 空襲で、千駄木の家屋を焼失。

新憲法公布・1946＝35歳： 三女りよが誕生。**喜多方町で、しきりに文章を書きはじめる。並行して、絵も描く。志賀直哉や斎藤茂吉と手紙のやりとりをはじめ、「鼠心」を書く。油絵個展を催す。**

新憲法施行・1947＝**36歳**： 長男哲太郎が誕生。**母が購入していた西生田の土地に転居。家鴨・鶏・兎・犬猫と田園生活。**

極東裁判決・1948＝37歳： **{タ刊ニイガタ}に「家鴨のこと一会津八一氏への書簡」寄稿。「鼠心」を発表。**

三大事件・・1949＝38歳： **評論社に入るも、事実上罷免され、退社。文化学園の美術科講師になるも、極貧状態。**

朝鮮戦争始・1950＝39歳： ***森鷗外記念会のことで野田宇太郎に出会う。座談会「観潮楼の鷗外」に、佐藤春夫於菟らと出席。「不肖の子」を発表し、詩「叢の壺」などを書く。**

独立回復・・1951＝40歳： **千駄木の屋敷跡の一角に本屋「千栄書房」を開店。「父の笑顔」発表。「小倉日記」を発見する。**

テレビ放送始・1953＝42歳： **「鷗外ブームに一言」「森家の兄弟」「団子坂」を寄稿。**

自衛隊発足・1954＝43歳： **観潮楼跡に鷗外記念碑落成。日夏耿介助から鷗外記念館建設の提議あり一同賛同。「防空壕」寄稿。**

55年体制始・1955＝44歳： **「父」寄稿。**

国連加盟・・1956＝**45歳**： ***「鷗外の子供たち」発表し、「鷗外の子供たち一あとに残されしものの記録」出版に至る。**

なべ底不況・1957＝46歳： **「僕の本屋商売」「眺望」寄稿。只野(神谷)智恵子との文通はじまる。**

美智子妃・・1959＝48歳： **「観潮楼跡」寄稿。**

タイタイ病始・1961＝50歳： **千栄書房を閉店、東京都杉並区今川に移住。生活費にあてるため国電恵比寿駅の近くにアパート建てる。**

全国総合計画1962＝51歳： **「はんでんぼく」「観潮楼の離れ」寄稿。鷗外記念本郷図書館完工式。於菟とともに津和野を訪ねる。**

TV宇宙中継始1963＝52歳： **{小説と詩と評論}創刊同人となり、創刊号の巻頭に「驟雨」を発表。続けて「市街八分」「百舌鳥」発表。**

東京リビッド 1964＝53歳： **「素人の感想」「散歩」「萬喧嘩引受庭一佐藤春夫のこと」を寄稿。「酔眼」(小説と詩と評論)発表続ける。**

大学紛争始・1965＝**54歳**： **この年、代々木病院副院長中田正也が公職選挙法違反で逮捕される。**

いざなぎ景気1966＝55歳： 長女が結婚。「柿・栗・筍」発表。翌年にかけて{小説と詩と評論}の編集を担当。**妻が代々木病院に入院。**

美濃部都知事1967＝56歳： **中田正也の公判を傍聴し、以後無罪を勝ちとるまで関る。兄於菟が死去。**

霞ヶ関どビル 1968＝57歳： **「細き川の流れ」戯曲「草鞋虫のいこひ」発表。「亜藤夫人」寄稿。次女が結婚。**

全共闘どビル・1969＝58歳： **「裁量権」発表。{中山先生を守る会}会長となる。{小説と詩と評論}主宰者木々高太郎が死去したため、同人を退く。座談会「鷗外・李太郎、茂吉を語る」に斎藤茂太らと出席。**

大阪万博・・1970＝59歳： 長男哲太郎就職決定。約二十人の団体で小倉の鷗外旧蹟を訪ねる。

ドルショック・・1971＝60歳： 長男哲太郎が結婚。「武士の影」「観潮楼」寄稿。

沖縄返還・・1972＝61歳： ***「ホヤホヤじいさん初孫」「父のことば」「鷗外の石田少介」「父・鷗外と小倉」寄稿。日在に小屋建設。**

角栄金脈辞任1974＝**63歳**： **「明治をつくった10人森鷗外」「結審迫る」寄稿。中田正也に無罪判決で{九年会}と改めひき続き会長。**

クランブル事件1975＝64歳： 妻美穂の病状悪化し、三女りよがパリに旅立った後、代々木病院に入院。

田中角栄逮捕1976＝65歳： **妻美穂が死去。ただちに長女五百の家に同居。「狐の家来」発表。**

JALハイジャック 1977＝66歳： **「賓和閣」寄稿。「狐の家来2」発表。再婚に向け、一回目の見合。**

成田衝突・・1978＝67歳： 五回目までの見合をするが決まらず。{九年会}会長として「会員の皆様へ」と挨拶状を出す。

革新大敗北・1979＝68歳： 知人の紹介で小屋恵子と見合し再婚。{週刊新潮}で紹介される。

中曽根内閣・1982＝71歳： **最初の心臓発作に見舞われる。生涯の親友長原玄が死去。**

ドイツユーラント 1983＝**72歳**： **「忘れえぬ町」市電人力広告塔」寄稿。東ベルリン鷗外記念館に鷗外の自筆原稿を贈る。**

・・・・・1984＝73歳：

竹下登内閣・1987＝76歳： **茉莉が心不全のため死去。**

リクルート事件・1988＝77歳： **「ビートルイの困惑」寄稿。**

昭和天皇没・1989＝78歳： 日在の新居が完成。***「硝子の水槽の中の茉莉」寄稿し、89年版ベスト・エッセイ集に選ばれ転載される。**

ドイツ統一・・1990＝79歳： **心臓発作のため、ニトログリセリンが放せなくなり、**

ソ連崩壊・・1991＝80歳： **没した。**